

## 2009年度 助成贈呈式・助成報告会

ご協賛：キリンビール株式会社

2009年6月14日に助成贈呈式・報告会を開催いたしました。ご参加くださった方からの感想です。「2009年度の神奈川子ども未来ファンドの助成金は、子ども達がのびのびと遊べるプレイパークや、不登校児童・生徒への学習支援や、DV被害にあった親子のシェルターや、家庭に居場所をなくした若者の安心できる場所など、どれも子どもの未来を思うとなくてはならないと支援だと感じました。

こうした活動の内容をひとつひとつを聞いてみると、「ひとりでも多くの理解者を増やし、活動の輪をひろげていく」ことが大事なのだと思えました。

子ども未来ファンドの助成は、その支援のひとつなのだと思えます。

報告会のなかで『お金を集めることの大切さ』という話が印象に残っています。

地域の人たちから寄付や募金を募り、“子どもたちの未来”への理解者をどれだけ増やすことが大事か。その支援があって、多くの必要とされている活動が生き生きと育っていく。

助成贈呈式・報告会を通して、子ども未来ファンドの仕組みの力強さをひしひしと感ずることができました。」



### ありがとうございます。

寄付・協力をいただいた方、組織（子ども応援委員会等・敬称略順不同）  
2009年4月～2009年6月

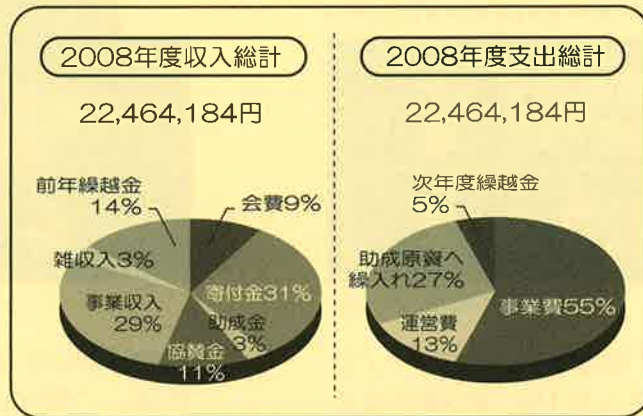
(株)川口

神奈川県アミューズメント施設営業者協会

キリンビール(株)横浜支社/ヤフー(株)/昭和建設(株)/(有)カインショー/モトスミ・ブレイメン通り商店街振興組合/(社)川崎地方自治研究センター/(株)イータウン/住工局なお(株)/ウインクル商会株式会社/(特)子ども未来じゅく/片倉うさぎ山公園あそび場管理運営委員会/(特)エンパワメントかながわ/まんま(特)夢・コミュニティ・ネットワーク/見花山かりん公園愛護会/Dark★staA/もくもくSTUDIO  
日産自動車(株) (マリノスゲームチケットのご寄付)

青柳敏子/横山弘美/山中幸子/長谷川孝/網代和枝/皆川昭俊/岸本幸子/羽生善治/高木葉子/小林正樹/井上久/山田一之/吉弘初枝/高浜賢治/安井寛明/竹下宏之/清水紳一郎/滝田衛/田村宣子/大西華奈子/嶋田繁/斎藤幸司/鈴木浩一/伊藤信吾/佐藤静枝/堀尾吉晴/伊藤敬徳/有北郁子/大槻美沙子/江成卓史/湯川晃浩/石渡正志/西田由紀子/渡邊朋子/鈴木高幸/三田村有/天明まなえ/天明美穂/松本和子/鈴木健一/西村奈歩 匿名寄付2名ほか募金箱設置各店、募金箱へご協力いただいた方々

## ●2008年度神奈川子ども未来ファンド収支



※上記一般会計の他に、神奈川子ども未来ファンド助成の原資を管理する特別会計があり、助成金（2008年は450万円を支出）は、特別会計から支出しています。一般会計、特別会計の決算書類は、ホームページでご覧いただけます。

### ご寄付をお願いします。

子ども・若者や子育てに関わるNPOを通じて子どもたちを支えます

#### ■寄付金お振込先

ゆうちょ銀行	00290-5-61718 神奈川子ども未来ファンド
中央労働金庫	横浜支店 普通1159830 NPO法人神奈川子ども未来ファンド
* 横浜信用金庫	本店営業部 普通682741 特定非営利活動法人神奈川子ども未来ファンド
* 川崎信用金庫	本店営業部 普通1045173 特定非営利活動法人神奈川子ども未来ファンド
* 横浜銀行	関内支店 普通1153803 特定非営利活動法人神奈川子ども未来ファンド

\* 川崎信用金庫・横浜信用金庫・横浜銀行では、窓口でのお振込に限り振込手数料が免除されます。

#### ■クレジットカード、ジャパンネット銀行からのご寄付

…子ども未来ホームページ(下記)「インターネット寄付」でお手続きください

### 会員として子どもの今と未来を支えてください

会 員 種 別	正会員(NPO法人の社員)	子ども応援会員(賛助会員)
議決権	有	なし
対 象	個人のみ	個人・NPO・法人
入会金	2,000円	なし
年会費	1口 10,000円	(年 払) 1口 5,000円 個人・NPO法人:1口~/法人・NPO法人:4口~/ (月 払) 月々1口 500円 (郵便口座から自動払込)

\* 子ども応援会員会費は、税制優遇の対象となります。

ゆうちょ銀行振替口座 00290-5-61718 神奈川子ども未来ファンド

ハンズ回ハンズ 第23号 発行：2009年8月20日

認定NPO法人  
神奈川子ども未来ファンド

〒231-0001 横浜市中区新港2-2-1  
横浜ワールドポーターズ6F NPOスクエア内  
TEL: 045-212-5825 / FAX: 045-212-5826  
e-mail: info@kodomofund.com  
URL: <http://www.kodomofund.com>  
携帯URL: <http://www.kodomofund.com/mb/>

# ハンズtoハンズ

認定NPO法人  
神奈川子ども未来ファンド

「あなたの思いを、届けます。」  
みなさまからの寄付を  
神奈川県内の子どもや若者の  
生きる力を育むNPO活動へ  
届け、活かします

第23号

### 神奈川子ども未来ファンド賛同人インタビュー④

## ファンドの活動が地域を結ぶきっかけに

前神奈川大学理事長 白井 宏尚氏



神奈川子ども未来ファンド賛同人インタビュー、4回目は、2009年3月に行われた朗読劇「ハッピーバースデー」相模原公演の実行委員長を務められた白井宏尚さんにお話をうかがいました。聞き手は、ファンド理事吉富多美さんです。

● 朗読劇「ハッピーバースデー」相模原公演の実行委員長をお引き受けくださいました。

朗読劇の原作本を読んだとき、涙が止まりませんでした。こんな経験は初めてでした。報道に長く携わり、虐待は重要な問題だとは感じていましたが、直接のかかわりはありませんでした。朗読劇は、内容が身近で、誰にでも関わりのあること。公演をたくさんの方々に届けたいと思いました。この取り組みは、子どものため、相模原のためになると感じて、委員長を引き受けました。

● 多くの方が、ご来場くださいました。

そうですね。公演後、ロビーへ行って感想を聞いたのですが、高校生と中学生のお子さんと一緒に来られたお母さんが「すばらしかった。また観たい。」と言っておられました。どの方に聞いても感激しておられましたよ。

● 準備を始めた当初、相模原でこうした取り組みは難しいと言われたのですが。

相模原市は広すぎて、歴史的にも集落ごとが独立しており、つながりにくかったのかもしれませんが、でも、この朗読劇で、子どものためにと多くの個人や団体が出会い、

#### 白井宏尚さん プロフィール

約40年間、共同通信社に勤務、ニュース報道業務に携わった後、9年間、母校神奈川大学の経営に参画、理事長職を最後に2008年9月、退任。何事も前を向いて積極果敢に取り組めば、道は必ず開ける。そうすれば、仕事も人生も楽しくなる、というのが持論。競争の激しい新聞記者の世界で体得した人生訓。相模原在住。

顔の見える関係が地域に生まれましたね。やってよかったです。今後、県内各地域で公演が行えるといいですね。

● 各地に、子ども達を応援する輪がひろがり、つながりができれば嬉しいです。子どもたちが育つ環境について、どう感じておられますか？

昔と比べて、のびのびとした時間や空間が無くなっていて、かわいそうですね。それと、社会がぎすぎすしてきて、余裕のある大人が少なくなったのかな。

学校、家庭、地域の大人たちは、できるだけ、子どもと向き合ってほしいですね。大人が関心を寄せることが、子どもの安心につながり、幸せにつながっていくのではないかと思います。人としてのマナーとルールを守ることも、子どもたちには身につけてほしいですね。お互いを大切に思いあうということは、社会で生きていくための基本ではないかと思いますよ。そうした意味でも、大人の役割は重要です。昔は、よその子どもでも悪いことをしたら叱ったものです。うちの子が叱られたら、ありがたいと思ったものです。人任せにしないことです。子どもを育てるために、大人同士が連携したらいいと思います。

● 大人の姿勢や連携が問われているんですね。朗読劇がその一助になればいいですね。どうも、ありがとうございました。

#### 朗読劇「ハッピーバースデー」チャリティ公演 2009 横浜

日時 2009年11月14日(土) 昼13:00～/夕16:30～  
会場 関内ホール 大ホール (JR/市営地下鉄関内駅、みなとみらい線馬車道駅各徒歩5分)  
出演 内海賢二、野村道子、斎賀みつき、はやみけい、安武みゆき、甲斐田裕子、代永翼、賢プロダクション所属声優  
チケット 3,000円 (全席指定・収益は子ども達を支える活動の資金になります)  
問い合わせ tvkチケットカウンター TEL 0570-00-3117 <http://www.tvkcom.net>



寄付者のみなさまは、  
こんな活動を支援してくれています!

団体の活動内容と、その活動に関するスタッフが、  
どんな思いで活動に携わっているのかもご紹介しました。

2009年度 助成対象団体紹介 その①



ひきこもりの若者の  
就労支援の場

アンガージュマン・よこすか

事務局長 島田 徳隆さん

横須賀中央駅から港町風情が漂う上町商店街の個性豊かな商店の並びに、ひきこもりの若者の就労支援の場「はるかぜ書店」がある。

店内では、お母さんに連れられた子どもたちが絵本の読み聞かせを待ちわびていた。

はるかぜ書店では、絵本の読み聞かせを月一回のペースで開催しているが、今年度からは新たに講師を招き、親子を対象とした絵本の情報交換会も開催している。ひきこもりの当事者である店長石井利衣子さんが、講師と相談をしながらテーマを考え、絵本を選び、当日の準備や進行までを主体的に取り組んでいる。

また、チラシやポスターを作成し、出来上がったチラシを近隣の幼稚園や商店に置いてもらうよう頼んでいた。スタッフが、書店の経営や広報について少しずつ自主的に関わりを持つようになってきた。

子どもファンドの助成金は、こうした活動費や広報費として使われ、スタッフの自主性を高めるために役立てられている。

「今まではお客さんから聞かれることに、答えているだけだったが、情報交換会をおこなったことで子どもやお母さんに触れ合うことができ、自ら声をかけたり、会話が出来るようになった」と石井さんは楽しそうに話してくれた。

近隣の商店も広報に協力してくれて、活動が地域に広がってきている。

アンガージュマン・よこすか事務局長の島田徳隆さんは、「子ども・若者たちが生きやすい地域社会をつくるのが大事だ」と語った。今年も商店街と協働で「山形物産市」を開催するなど、就労支援は広がりを見せてきている。



団体名 NPO法人アンガージュマン・よこすか  
 助成事業 本屋でコラボで読み聞かせ  
 助成額 560,000円  
 所在地 横須賀市上町2-4  
 TEL 046-801-7881  
 E-mail engagement@angelicsmile.com  
 URL http://engagement.angelicsmile.com/  
 活動日 月～金：10時～18時（はるかぜ書店 月～金：9時～18時）  
 スタッフ 専従スタッフ5名、書店スタッフ4名、臨床心理士2名  
 ボランティア 常時募集中



2009年度 助成対象団体紹介 その②

居場所を失った  
子どもたちの「場」

子どもセンター てんぽ

事務局長 高橋 温さん

「てんぽ」は「temporary＝一時的な」や「自分のテンポで……」という意味を含めて名付けられた。居場所を失った15～20歳のためのシェルターだ。

居場所を失う事情は様々で、経済的な問題や、親のストレス、苦しみのはけ口にされる暴力や心理的ないじめなど。

複雑な家庭事情により、気持ちの休まらない日々を送る子どもたちには居場所がない。

安心して寝起きできる場所、就職や進学など将来のことを含めて相談できる相手が子どもたちには必要である。児童福祉法が適用される18歳未満は行政が設置する一時保護所が利用できるが、18歳以上は保護が必要な状態でも行き場所がない。また、一時保護所は原則として外出ができないため、15～18歳の高校生が学校や仕事を続けられず、入所をあきらめざるを得ないことがある。親から逃げて来ても、20歳未満は民法により「親権者の親権に服する」とされているため、親から逃げて来ても、「誘拐された」と言い張る親権者との法的トラブルもあり得る。

法や制度の狭間に置かれた子どもたちのために、シェルターの必要性を痛感した弁護士など有志によって、「子どもセンター てんぽ」は2007年に開所した。一時的な避難場所として生活の衣食住を提供しながら、可能な場合には学校に行ったり、仕事を探したり、それぞれの子どもの大人になって立ち立てるように応援していく。虐待を受けるなどの環境で育った子どもたちは、社会性を身につけられていないことも多く、手続きのため役所や病院に行く時は付き添いが必要である。退所後も事実上相談に乗り、見守っていく。「今までよく生きてきたな……と思う状態でここにやって来ます。そんな子どもたちに、何より『世の中には信用できる大人もいるんだ』と思ってもらいたい。それが子どもたちに一番大切なこと」と事務局長である弁護士の高橋温さんは言う。

子どもファンドの助成金で、「居場所のない子どもの電話相談」の専従相談員を養成する。電話では、辛い気持ちを受け止めるだけでなく、緊急避難所として「てんぽ」の紹介、さらに各種相談窓口や法的支援が必要なら弁護士の紹介などができなくてはならない。専門知識が欠かせないため1年間の研修を行い、現在週3日の相談を、週5日対応にすることを目指す。子どもたちの明日への〈入口〉となるために。

団体名 NPO法人子どもセンター てんぽ  
 助成事業 電話相談員養成事業、滞り者同行支援事業  
 助成額 800,000円  
 所在地 シェルターのため公開していない  
 （連絡先：横浜市港北区新横浜2-4-6 マス第二ビル8階 新横浜法律事務所内）  
 TEL 045-473-1959  
 E-mail tempo@shinyokohama-law.com  
 URL http://www3.plala.or.jp/tempo/



2009年度 助成対象団体紹介 その③

不登校児童・生徒への  
学習支援

シャーロックホームズ

塾長 落合 嘉弘さん

横浜駅から15分ほど歩くと、閑静な住宅街のなかに「おっちー塾」がある。“勉強したいが学校には行けない”と悩みを持つ子どもや“日本語に不自由する”外国籍の若者達に、ボランティアスタッフの現役の大学生中心になって勉強を教えている。いつでもだれもが立ち寄れるそんな居場所だ。

「おっちー塾」を運営しているNPO法人「シャーロックホームズ」は、いじめによる自殺が社会問題となった1998年に、青少年の交流の機会提供や就学・就労の支援等を進めるため、代表の今井嘉江さん宅の一部を開放して青少年の居場所を開設した。今井さん宅の前に公園があり、近所の子どもたちが集まったことで、いつのまにか親子の集いの場となり、それが現在、子育て支援拠点ともなり幅広い年代が集う居場所へと広がっていった。

“おっちー”こと落合嘉弘さんは教員時代、忙しい毎日に追われ、学校に来られない子ども達がいながら、向かい合う時間を持つことが出来ない現実を痛感し、退職後塾を開く決意をした。

七色の絵の具で彩られた「おっちー塾」の看板は、塾生とボランティアスタッフが一緒になってデザインから制作まで行った。「塾生だけでなく教える側も一緒に共同作業することが大切であり、勉強や雑談の中で、お互いに気づいたり、学んだりすることも多々ある」と落合さんは熱く語った。

子どもファンドの助成金は、より広範に塾の存在を知らせていくための広報活動費や研修費など充てられる。落合さんは、出来上がった新しいパンフレットを見せてくれた。「このパンフレットも、塾生やボランティアスタッフが一緒に考えて新しく作ってくれたんですよ。」

最後に、「塾を通して、子どもたち一人一人が、“大切にされているんだよ”“受け入れられているんだよ”といったメッセージを受け止め、自信を持ち、自分自身の可能性を広げてもらいたいし、自己肯定感を培ってほしい。」と力強く話してくれた。



団体名 NPO法人シャーロックホームズ  
 助成事業 青少年自立支援（不登校児童・生徒へ学習支援）  
 助成額 800,000円  
 所在地 横浜市西区南郷井沢18-1 南郷井沢パークハイツ110号室  
 TEL 045-324-5033  
 E-mail occhi\_juku@yahoo.co.jp  
 URL http://sherlock.jp/  
 活動日 月・火・木・土（祝祭日は休み）平日16時～18時 土曜日 10時～12時  
 スタッフ 20名（ボランティア含む）  
 ボランティア 学生ボランティアを募集中